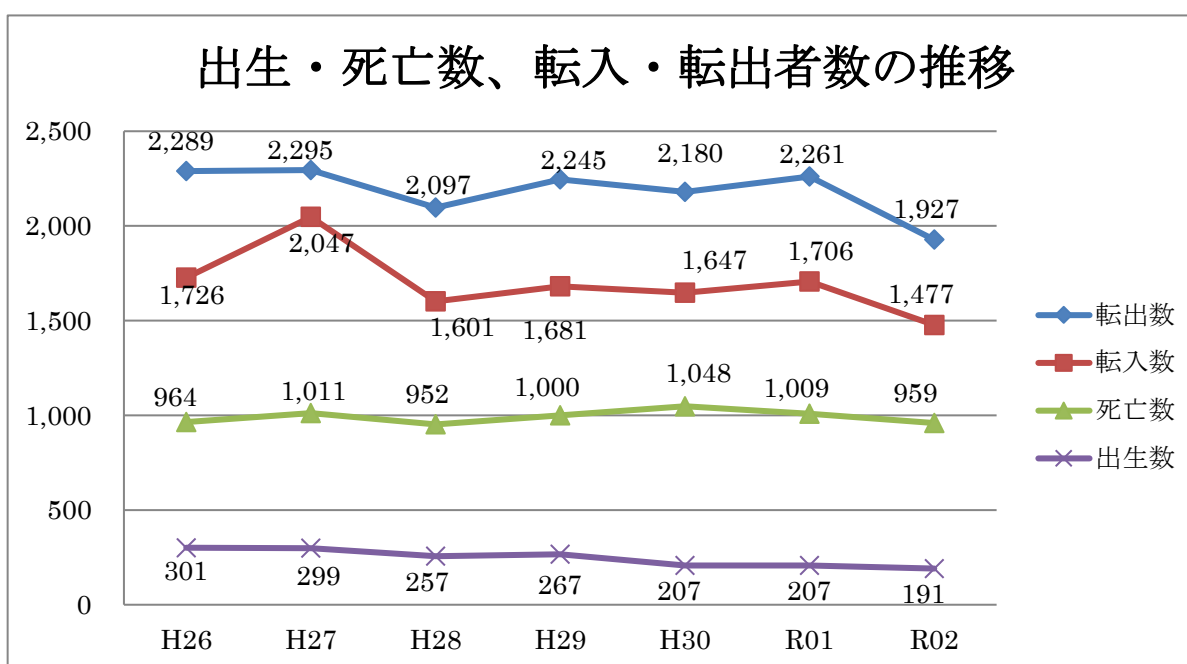
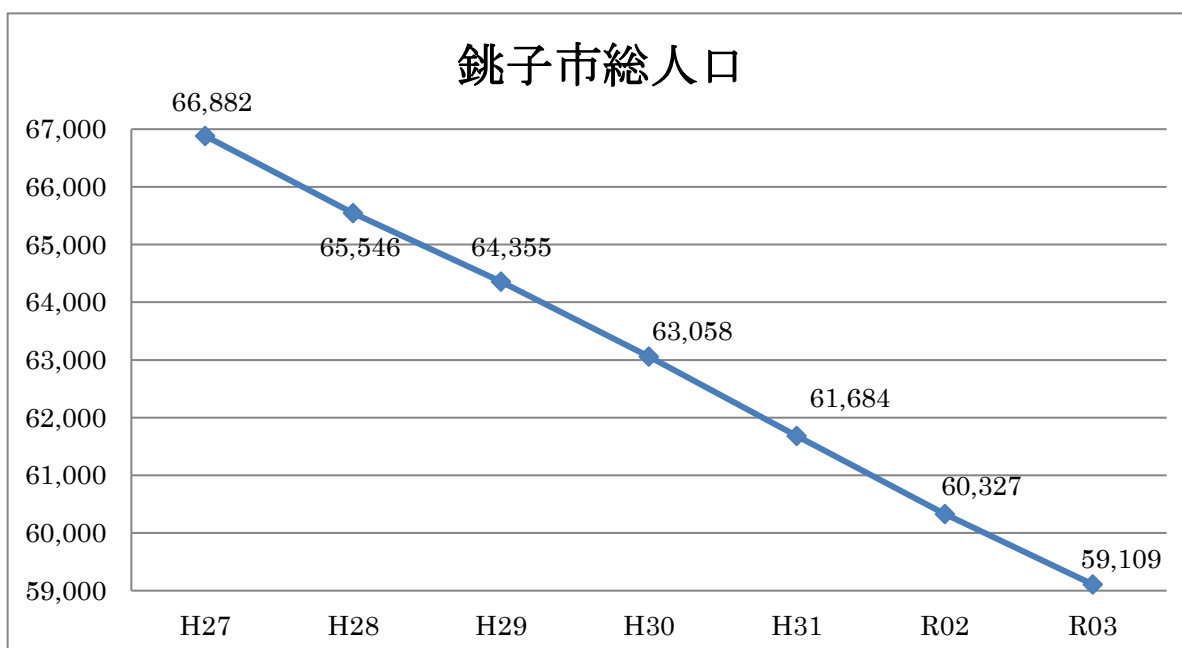


本市の状況

銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略は、喫緊の課題である人口減少問題を克服し、銚子創生を成し遂げるために、各種個別計画との整合性を図りながら、分野を超え横断的に取り組む「戦略的ビジョン」として位置付け、5か年の基本目標と具体的施策をまとめたものである。令和2年3月に第2期の戦略を策定し、令和3年2月の改訂で取組を追加した上で、この戦略を推進している。令和2年10月の国勢調査の速報値は58,478人（前回（平成27年10月）64,415人）、前回と比較し5,937人（▲9.22%）の減少となり、人口の減少傾向が続く厳しい状況となっている。



※出典 総人口：住民基本台帳（各年1月1日現在の数字を使用）

出生・死亡数、転入・転出者数：銚子市統計書

【令和3年度の状況】

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、市民の生活、経済活動は大きな影響を受けている。銚子市では千葉県・茨城県の発表を合わせ、これまでに456人（令和3年8月24日現在）の感染が確認されている。7月には市立病院でクラスターが発生するなど、医療提供体制を含め、予断を許さない状況が続いている。

ワクチン接種は、65歳以上人口の約82%に当たる19,197人（同日現在）が1回目の接種を終え、約72%に当たる16,746人が2回目の接種を終えている。64歳以下の方への接種についても、迅速な対応が必要となっており、ワクチン供給量を踏まえて、段階的に接種日の案内、個別接種の予約受付を開始している。

今後もしばらくは、不特定多数の集会の自粛や感染予防対策の徹底により、感染拡大を食い止めなければならない状況である。

オリンピック聖火リレーをはじめ、銚子みなとまつり、さんまマラソンなどの各種イベントは中止を余儀なくされ、海水浴場の開設も昨年度に続き中止した。さらに、9月12日まで継続している緊急事態宣言などの影響により、観光需要の回復に向けては、依然として厳しい状況が続いている。

雇用環境についても、銚子公共職業安定所管内の有効求人倍率は、0.75倍（2021年6月）となり、前年同月の0.81倍と比較し更に減少している。

洋上風力発電事業は、発電事業者の公募期間が5月27日に終了し、11月にも発電事業者が決まる見込みである。事業が本格的に動き出す中で、洋上風力発電設備の運転管理・保守点検の拠点として名洗港を活用できるよう、国・県に働きかけるとともに、名洗港を中心とした洋上風力関連産業の集積やサプライチェーンの形成等に取り組むことで、新たな雇用創出や地元企業の活用といった地域経済の発展につなげていく。